資料3-1

# 県立高等学校における合理的配慮の提供事例

実践研究校事業中間報告会から

中央高校における
通級による指導の成果と課題について

～実践研究校事業1年目の取り組みから～

山梨教育委員会　高校教育課

## Ⅰ　中央高校の「通級による指導」の概要

### 高等学校における「通級による指導」の背景

- ●インクルーシブ教育システムの理念
- ●特別支援教育の充実
- ●小中高からの連続性のある多様な学びの場

平成28年　学校教育法施行規則及び文部科学省告示の改正により平成30年度から実施されることになった。

## Ⅰ　中央高校の「通級による指導」の概要

### 「通級による指導」の学習指導要領

**学習指導要領　特別支援学校高等部　自立活動　6区分26項目**

**1　健康の保持**
（1）　生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。ほか

**2　心理的な安定**
（1）　情緒の安定に関すること。　ほか

**3　人間関係の形成**
（1）　他者とのかかわりの基礎に関すること。　ほか

**4　環境の把握**
（1）　保有する感覚の活用に関すること。ほか

**5　身体の動き**
（1）　姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。ほか

**6　コミュニケーション**
（1）　コミュニケーションの基礎的能力に関すること。ほか

## Ⅰ　中央高校の「通級による指導」の概要

### 開設に向けた準備

本校職員は，平成29年10月の新聞報道で「通級による指導」が平成30年度４月より開始されることを知り，11月より準備を行った。

準備内容

（1）　準備委員会の設立
　⇒　手続きや広報など

（2）　教育課程
　⇒　教科名「**社会探究**」
　　年間２単位修得

（3）　対象生徒の決定
　⇒　校内委員会にて６名を決定

（4）　**学習プログラムの協働**
　⇒　資料　p.10参照

山梨日新聞
11/10
通級指導 中央高に導入
発達障害の生徒に対応
核放棄まで制裁

## Ⅰ　中央高校の「通級による指導」の概要

### 「社会探究」の学習内容

| Pro | 時 | 学習タイトル | 主な内容や目的 | 自立活動区分 |
|---|---|---|---|---|
| 01 | 1<br>2 | ちょっと先の未来図①② | 具体的な行動目標を立てる。 | 1.2.3.4.5.6 |
| 02 | 3 | リラックスしよう | リラックスを体験する | 2.5 |
| 03 | 4<br>5 | 自分の特徴を知ろう①② | 自己理解を促進する | 1.2.3.4.5.6 |
| 04 | 6<br>7 | ストレスと上手に付き合おう①② | 心理的安定を促進する | 1.2.3.6 |
| 05 | 8<br>9 | 行動のメリット①② | 行動の般化を促進する | 1.2.3.6 |
| 06 | 10 | 適切な距離感 | 他者との距離感を体験する | 3 |
| 07 | 11<br>12<br>13<br>14 | コミュニケーションのコツ<br>①②③④ | 話す，聞く，対話する | 3.6 |

全17のプログラム　桜美林大学　小関俊祐 先生の研究室と協働しています。

## Ⅰ　中央高校の「通級による指導」の概要

### 「社会探究」の学習内容

**教育機関と研究機関との協働**

**実践者と研究者の得意分野を活かしながらエビデンスベイスドな取組を目指しています。**

- **臨床心理学「認知行動療法」の理論に基づいたプログラム**
- **担任等による客観的な行動評価**
- **本人や他の生徒による主観的評価の比較**
  **自尊感情・ストレス対処力・対人関係スキル・自己効力感**

全17のプログラム　桜美林大学　小関俊祐 先生の研究室と協働しています。

## プログラムの理論　認知行動療法とは

**保護者や教職員のみなさまに，県の取組や認知行動療法による教育支援方法，また，授業の実際を体験的に知っていただく機会を企画しました。ぜひ案内ください。**

## Ⅰ　中央高校の「通級による指導」の実際

### 認知行動療法による学習プログラムの実際

| Pro | 時 | 学習タイトル | 主な内容や目的 | 自立活動区分 |
|---|---|---|---|---|
| 01 | 1<br>2 | ちょっと先の未来図①② | 具体的な行動目標を立てる。 | 1.2.3.4.5.6 |
| 02 | 3 | リラックスしよう | リラックスを体験する | 2.5 |
| 03 | 4<br>5 | 自分の特徴を知ろう①② | 自己理解を促進する | 1.2.3.4.5.6 |
| 04 | 6<br>7 | ストレスと上手に付き合おう①② | 心理的安定を促進する | 1.2.3.6 |
| **05** | **8<br>9** | **行動のメリット①②** | **行動の般化を促進する** | **1.2.3.6** |
| 06 | 10 | 適切な距離感 | 他者との距離感を体験する | 3 |
| 07 | 11<br>12<br>13<br>14 | コミュニケーションのコツ<br>①②③④ | 話す，聞く，対話する | 3.6 |

## 行動のメリット　授業を飛びだしてしまうDさんとの授業

目的　●感情と行動の関係を学ぶ●
　　●行動によって気持ちが楽になることを学ぶ●

目標　気持ち楽になる行動をリスト化する

「自立活動６区分　との対応」
1　健康の保持　(4)　健康維持
2　心理的な安定　(1)情緒の安定　(3)困難を改善克服する意欲
3　人間関係の形成　(3)自己理解
4　環境の把握　(2)　感覚認知特性　(5)認知行動概念形成

出来事に対する認知・感情・行動をふりかえり，ストレス対処につながる行動を増やしましょうという授業です。

## 行動のメリット　授業を飛びだしてしまうDさんとの授業

なぜ僕はマイナスの認知と感情しか出てこないのだろう？

自己理解が促進した発言です。

物事の捉え方の枠組み(フレーム)を変えさせる指導です。(リフレーミング)

出来事 取材 → 認知 トラブルを起こしそう → 感情 怖い → 行動 「なにもしない」→ジッとしている

授業導入の際に，毎回１週間をふり返らせるための決まった質問をしています。応答から生徒の変容を観察しています。
また，生徒の発言内容が，その授業のテーマになることがあります。

## 行動のメリット　授業を飛びだしてしまうDさんとの授業

巡回しているときの僕の様子どうだった？

Dさんは，あまり話しをしたことのない女性のX先生の授業に困難さを感じていました。

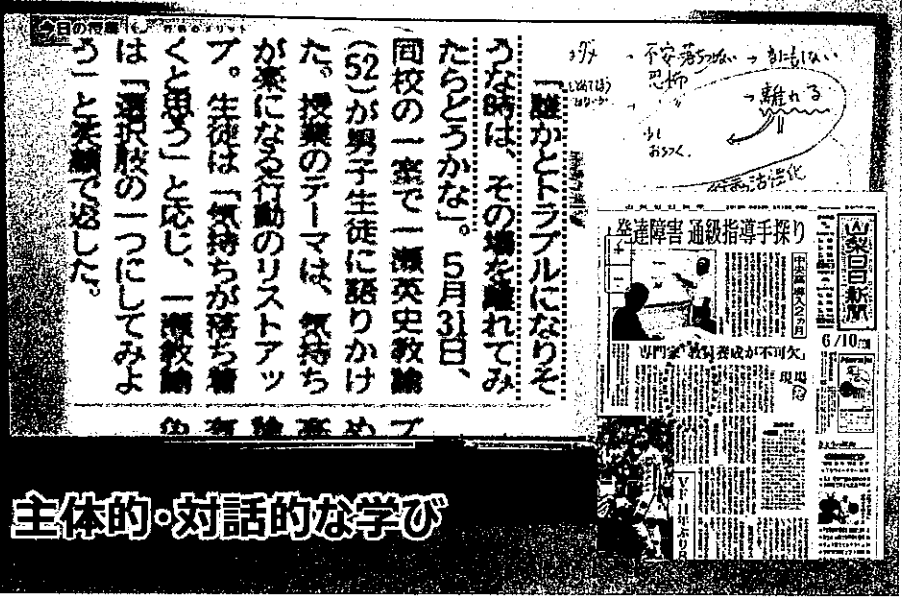
出来事 X先生の授業 → 認知 「進行を止めてしまうのではないか」 → 感情 「怖い」「落ちつかない」 → 行動 「飛びだす」「危険を回避するために離れている」

離れる
先生を呼び出す
巡回する
きれいな景色を見る

「少し落ちつく」「楽になる」

**支援仮説と指導目標**
●主体的な行動を肯定的にフィードバックする必要があるのではないか。
●本人の困難さを察することで他者性を育む必要があるのではないか。

## 行動のメリット　授業の実際

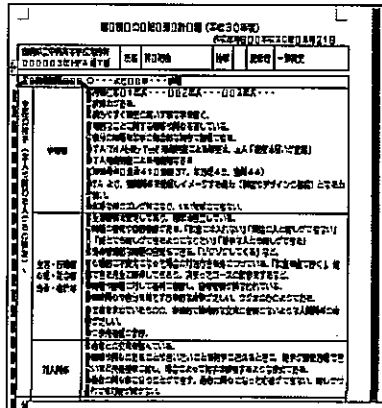



主体的・対話的な学び

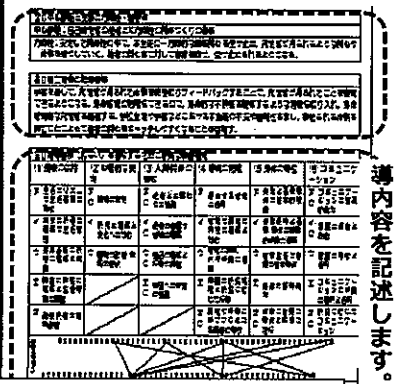
## Ⅱ　中央高校の「通級による指導」の実際

### 個別指導計画作成の実際

本人の様子を学習面・生活行動面・心理社会面身体症状・対人関係などについて聴き取ります。



指導の方向性と目標を立てます。



自立活動の区分に即した指導内容を記述します。

**授業を進めながら少しずつ問題や課題が見えてきます。指導計画を立てることは，スタートというよりもゴールのように感じられています。**

## 約束を守るコツ　スケジュール管理に関する授業

健康の保持　人間関係の形成　環境の把握など

朝起きてから出かけるまでの準備やバス停まで行くための見通しを立て，実際に確かめるという内容です。

## 約束を守るコツ　スケジュール管理に関する授業

健康の保持　人間関係の形成　環境の把握など

**一人ひとり異なる予定の立て方や見通しの持ち方**

Bさん　出かけるまでに準備をするので2時間くらいの時間が必要。前日に準備することは困難である。なぜなら出かけるまでの間に「あれは大丈夫か？これは？」と不安が湧いてきてしまうから。

Cさん　約800mの距離を歩いたとすると30分くらいかかると予想した。分速100m/分なら8分で行けると計算できるが，実際に歩いてみると約200m程歩いただけなのにくと「5分くらい歩いた」と感じ，300m先に見える橋まで7分かかると予想した。

Dさん　授業や学校の予定は全て記憶に頼っており，手帳もスマホも使わずそもそも予定など立てない。「予定を立てても何が起こるかわからない」ので予定を立てないことが，予定通りに行かないことによる不安を避けるための工夫であった。

単に「発達障害」の診断だけで理解はできない。

## Ⅱ　中央高校の「通級による指導」の実際

### 個別指導計画作成の実際

**対象生徒と個別指導の方向性**

**Aさん（３年女子）　月⑤⑥　（自我の課題　解離症状）**
**心理的な安定と　同輩を中心とした関係性の拡がり**

**Bさん（４年男子）　火⑦⑧　広汎性発達障害**
**困難を感じる場面での対処力強化と自己安全感の促進**

**Cさん（４年女子）　火⑦⑧　（自我の課題）**
**他者との関係性の構築と拡がり**

**Dさん（３年女子）　木⑦⑧　自閉症・広汎性発達障害**
**自己肯定感の促進と双方向性の関係づくりの構築**

**Eさん（４年女子）　金⑤⑥　（自我の課題　リストカット）**
**他者との関係性構築に役立つ安全感，安心感，肯定的な感情の促進**

**Fさん（２年男子）　金⑤⑥　高機能広汎性発達障害　AD/HD**
**他者に対する信頼感の促進**

**後期より，Gさん（1年女子），Hさん（１年女子）が履修しています。**

## Ⅱ　中央高校の「通級による指導」の実際

録画映像による実際　　集団守秘 お願いします！

- 教室の様子や授業の雰囲気
- 対話の様子　やりとりの様子
- 生徒の特徴　その場で生じていること　・・・

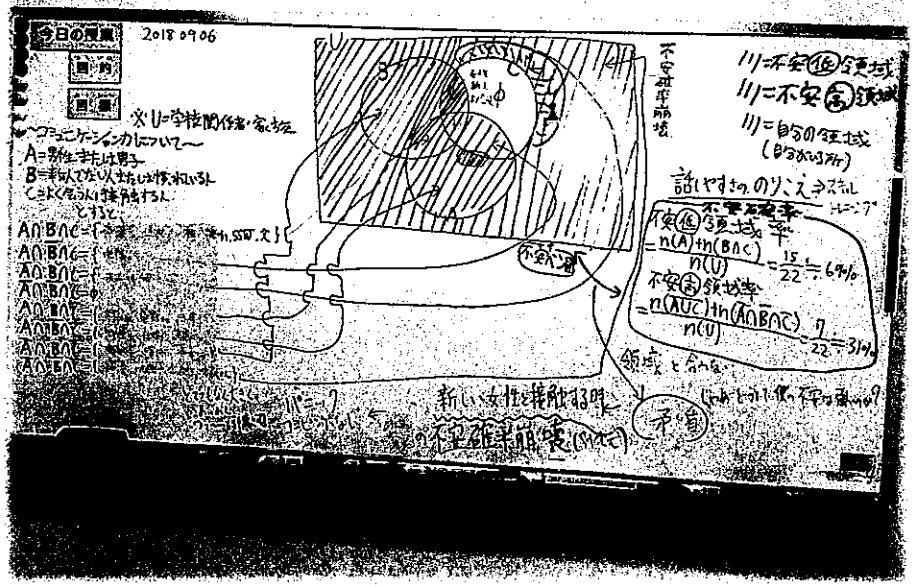
【担当者が考えている生徒にとって大切なスキルや体験】

Gさん　[illegible]
育成すること。

Tさん　[illegible]
[illegible]を完全[illegible]すること。

**Dさん　少年期の同性同輩的な関係を体験すること。**
**異文化的環境に対するコーピング力を育成すること**

## Dさんの交友関係の自己理解




## Ⅲ　成果と課題　　研究機関（桜美林大学）による分析

### 成果

- 対象となった生徒の抱える学校生活上の問題を解決することの自信（セルフエフィカシー　自己効力感）が持てるようになった。
- わからない状況や自信のない状況で見られていたパニックが減ったり、先生や友人に、自分から挨拶を行うなどの行動がみられるようになった。
- 心理的ストレスの低減にもつながった。
- 二次障害予防にも寄与できる可能性が示唆された。

## Ⅲ　成果と課題　　研究機関（桜美林大学）による分析

### 課題

- 通級指導の授業「だけ」では、効果の向上や定着には限界がある。通級指導で扱った内容を、適切に教員間、あるいは保護者とも共有しその効果が広く日常生活で確認できるよう、学校としての体制づくりを行う必要がある。
- 学校と研究機関と連携を図ってプログラム作成や効果の検討を行うことができるような連携体制づくりと，通級指導ができる専門性をもった教員の育成も今後求められる。
　これは，教育委員会主導で行っていくことであるが、様々な問題や課題に対処することが求められる学校には不可欠である。

## Ⅲ 成果と課題

### 生徒の反応

**Aさん（３年女子）　月⑤⑥　就職内定　卒業予定**
「今まで自分の認知を考えたことがなかった。ネガティブな感情が多かったがポジティブに考えられるようになった。就職面接で役だった。」

**Bさん（４年男子）　火⑦⑧　障害者手帳取得　卒業予定**
「気分・気持ちの切り替えができるようになった。前と比べると辛いことを感じることが少なくなった。今も急に話しかけられると、驚くことはあるけれど、前のように『この人が何かしてくる』という気持ちは少なくなった。」

**Cさん（４年女子）　火⑦⑧　初めてアルバイトを体験した　卒業予定**
「自分からあいさつをするようになった。散歩するようになった。」
「苦手だと思っていた人の周りの人とも話せるようになって人間関係が拡がった。学校が楽しくなった。」

**Eさん（４年女子）　金⑤⑥　卒業予定**
「知識として理解はできるし，少しは変化していると思うけど，まだ行動できていない。」

**全ての生徒が「他の生徒も受けた方が良い。勧めたい」と答えていました。**

## Ⅲ 成果と課題

### 我々の所感

- 履修について
  履修して欲しい生徒であっても本人や保護者の理解が得られないことがある。
- 専門性について
  さまざまな視点からのアセスメントが必要になる。
  授業の中で生徒の特性や課題展が現れ対応力が求められる。
- 学習プログラムの必要性
  場当たり的な授業とならないように骨子となるような学習プログラムは必要であるが，「自立活動」に即したさまざまな学習プログラムを高等学校の教員が作成するのは困難である。
  生徒の特性に合わせた個別の指導であり，常に試行錯誤しながら進めていかなければならないが，そのためには担当者同士で話し合いや相談できる良質な関係性が必要となる。

## Ⅲ 成果と課題

### 我々の所感

- 実態把握について
  中学校や保護者，各機関や関わりのある教職員との連携が不可欠であるが，生徒によって連携のしやすさには温度差がある。
  WISCなどの発達の偏りをアセスメントする検査も必要となるときがあると考えられるが，学校や教員が行うものではないので，容易に検査を実施する機関との協働が必要である。
- 「個別の指導計画」の作成について
  「個別の指導計画」とリンクしたアンケートや質問用紙を準備する必要がある。
  最初からしっかりしたものを作成するのではなく，わかる範囲で作成し必要に応じて修正する必要がある。
  専門性が必要であるため，初期には専門家によるアセスメントする機会も必要である。

## Ⅲ 成果と課題

### 我々の所感

- 評価の方法について
  教員の評価に加え，生徒本人，保護者による評価も必要ではないか。
- 全職員の協力と共通理解の必要性
  「何をやっているかわからない」と感じている教職員のために授業公開や通信の発信，校内研修会等で共通理解を図ろうしている。しかし，業務や意識とのバランスで課題も大きい。
- 指導体制
  ティーム・ティーチングは不可欠。二者関係では生徒の病理性を受けてしまうことや，問題に巻き込まれるか無視してしまうか，ということが生じる。ティーム・ティーチングはスーパービジョンともなる。
  受けている生徒が一人や二人だから担当者はひとりでも良いなどと他の教科と同じように考えてはならない。